

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 加藤 哲也
幹事 久米 博明
会報委員長 鬼頭 一浩

2016 ~ 2017年度 国際ロータリー ジョン F. ジャーム 会長テーマ

Rotary serving humanity 人類に奉仕するロータリー

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2966回例会プログラム

[当年度=34回目; 当月=4週目]

2017年(平成29年) 4月24日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
※第3四半期皆出席の発表(出席委員会)
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(5/1) ……休会
(クラブ定款第6条第1節(c))
(5/8) ……

クラブフォーラム(環境保全小委員会)
小堤西池のカキツバタ群落見学
例会12:30 ~ ハイウェイオアシス
見学13:30 ~ カキツバタ群落

2. クラブフォーラム……………〈雑誌委員会〉

- 13:00 卓話 「刈谷を取材して思うこと」
講師 中日新聞刈谷通信局
通信局長 土屋 晴康 様
(紹介者 横山 宜幸 会員)
13. 謝辞
14. 点鐘……〈会長〉
15. 閉会宣言

13:30 16. 散会

出席

会員総数 93名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名
欠席 13名 出席率 84.52%
前々回(4/10)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 4月22日(土)、刈谷市国際交流協会総会に幹事が代理出席しました。

幹事報告

- 1) 本日例会終了後、事務局にて理事会を開催致します。ご関係者のご出席をお願い致します。

副幹事報告

- 1) 4月22日(土)、地区研修協議会が開催されました。次年度役員、委員長の方々、ご出席ありがとうございました。



- 2) 本日、18時より、次年度理事、役員顔合せ会を開催致します。場所は、ご案内致しました通り、古屋会員のお計らいで、大名古屋ビルディング33階、東海東京証券、オルクドールサロンです。対象の方は、お忙しいとは、存じますが、ご出席をお願い致します。

委員会報告

●環境保全小委員会

- 1) 毎年恒例の緑の募金のお願いです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。
- 2) 次回5月8日の環境保全小委員会による例会は、場所が刈谷ハイウェイオアシスです。また駐車場が大変混雑致しますので、お早めにお越し下さい。

会長あいさつ

落語“寝床”

加藤 哲也



いたって好人物の旦那だが、玉にキズが自分だけ上手だと思いついて義太夫。ある晩、その義太夫をなんとか皆に聞かせようと、店の者に命じて自分の持っている長屋や町内の人たちを呼びにやらせ、わくわくしながら開演準備中。

そのうちに町内を回った店の者が帰ってきた。様子を聞くと皆都合が悪いと言う。誰それは仕事、別の人は女房が臨月。店の雇い人たちも全員病気。店の連中も長屋の人たちも、旦那の氣勢におそれをなして誰も集まってこないのだ。

旦那はすっかり腹を立て、店の者には暇を出し、長屋の者には追い立てを食わずとえらい剣幕。

これはまずいと思った店の番頭がなんとかとりなし、ようやく一同が顔を揃え、機嫌を直した旦那が義太夫を語りだした。

しかし、やってきた連中は義太夫なんかまったく聞かぬ。酒飲みはふるまわれた酒や肴、下戸は甘いものご馳走をたらふく食べて寝てしまった。

旦那は、座が静かになったのでさぞかし聞き惚れているのだろうと考え、様子を見ようと簾をあげると全員がゴロゴロと横になっている。ひどいのは他人の足を枕にしてゴーゴーと高いびき。

旦那が怒ったのなんの、頭から湯気を出す勢いで座敷にいるはずの番頭を探した。

「おい、番頭、番頭」

なんのことはない、番頭本人も鼻から提灯で眠りこけている。ねぼけている番頭を怒鳴りつけ、他の連中にも「帰れっ」と一喝。

一同がモゾモゾと動きだしたところで、どこからか泣き声が聞こえてきた。

「誰だ、泣いているのは」

旦那が見回すと、隅っこのほうで店の小僧の定吉が泣いていた。旦那はてっきり義太夫の悲しい場面感動して泣いていると一人合点。どうだ、こんな子どもでも感動するのだと番頭をはじめ周囲の大人を自慢気に見回し、定吉にどこの部分がよかったのかと聞き始めた。いろいろと悲しい場面の演目を並べても定吉は泣きながら首を

(2)

振るばかり。

「そんなもんじゃありません」

「泣いてばかりいないで言ってごらん」

「あそこでございます」

「えっ、あそこ。あそこはあたしが義太夫を語った床じゃないか」

「あそこが、あたしの寝床でございます」

卓 話

「刈谷を取材して思うこと」

中日新聞刈谷通信局

通信局長 土屋 晴康 様



刈谷で感じるのは民間活力の豊かさ。商工会議所が進める各種取り組みは全国でも珍しい。少年事件が起これば「青少年の健全育成連携事業」に多くの企業が協力する。自動車の街として、交通安全にも積極的で、街中に啓発のぼり旗が並ぶ。驚か

されたのは昨年三月にあった「愛知からくりくふう展」。からくりと聞いて、いまいちピンと来なかったが、トヨタ系企業がいまも生産現場で生きるからくりの技術をわかりやすく紹介していた。それを楽しみに押し寄せる来場者の質。これは刈谷ならではの資源ではないか。これからの刈谷のまちづくりを考えたとき、これら民間の発想力は欠かせない。財政が豊かな自治体には共通の特徴がある。建物が立派、道路もきれい。豊かであるゆえ、お金で解決できてしまう。ゆえにアイデアや人を動かすことが不得手。行政と民間の発想力が結実した成功例が刈谷ハイウェイオアシスだろう。「豪華なトレイをつくる」。その発想が建物に人を惹きつける輝きを与えた。行政ではできなかった。デザインした鶴飼哲矢さんは以前「建築は手段であって、目的ではない。街の主人公はあくまで人で、人がやっていることが建築になる」と話していた。その点でいうと、まちづくりにかんする団体が少ないのがやや気がかり。東境で特産の切り干し大根で虫歯予防を図る取り組みがあった。ほかの地域でも足元の資源を見つめた、まちづくりへの動きが出てくれば楽しい。

刈谷は将来性にあふれ、全国に先駆けた取り組みが再びできる素地があると思う。それを成功に導く鍵は刈谷の市民力、企業力にあると感じている。

第11回理事会

I 会長挨拶 <会長>

II 議 題

1. 5・6月のプログラム(案)について

<クラブ奉仕委員長>

<プログラム委員長>

2. 新入会員について

<幹事>

3. ローターリー文庫について

〈社会奉仕委員長〉

4. 青少年交換学生について

〈青少年奉仕委員長〉

5. 事務局ゴールデンウィーク休暇中の緊急連絡先について

〈幹 事〉

6. その他

Ⅲ 会場監督の所見